

# 国際ガラスデータベース第2版完成にあたって



データベース委員会委員長 内野 哲也

日本が国際貢献をする方法はいく通りかあると思いますが、知的なストックの拡大を図り、学問・生活の向上のために役立てるのが、その1つの方法と考えます。

社団法人ニューガラスフォーラムが企画した国際ガラスデータベース事業は、ガラスに関するこれまでの膨大な知識を集大成し、しかもパソコンとCD-ROMというニューメディアを使って、データの抽出を容易にし、全世界の学者や企業家に知識を普及するという、文字どおり知的事業を通じた国際貢献に他ならないものです。

本事業に踏み切られた当時の古本会長をはじめ、ニューガラスフォーラム会員会社のみなさまの先見の明に、データベース委員会委員長として深く感謝する次第です。

国際ガラスデータベースの初版は91年4月に完成し、2年間に約150セットをご使用頂きました。世界各国の異なるパソコンやCD-ROMドライブに、ユーザーの皆さまが検索ソフトを上手にインストール出来るのだろうかと内心心配しておりましたが、幸いクレームがなく好評に推移でき、第2版の上市の運びになりましたことを嬉しく思います。

データベースの有効性のポイントは

(1)データの豊富さ(2)データの正確さ(3)使い勝手の良さにあります。

データ量につきましては、第1版におけるニューガラスフォーラム加盟各社の努力の結果、1960-79年以降の雑誌データ3.3万件を含む約10万件のデータが収録され、利用者は10万件分の書籍・雑誌・特許・カタログを座右に完備したと考える事が出来ます。

データの正確性については、第1版発行後利用者の反響および事務局の調査の結果、誤りが少ない事が判明しております。

使い勝手につきましては、当初心配したCD-ROMの検索の遅いことも、インデックスファイルシステムの利用、ハードディスク・RAMディスクの利用等のリコメンドにより快適な利用環境が実現できる事が判明しました。

INTERGLAD第2版は、第1版発行後の2年分の雑誌・特許を主体に1.6万件のデータを新たに追加し、初版のデータの誤りを訂正し、ダウンロードに於けるファイル名の設定作業を容易にし、プリントシステムの改良を行って、例えばオールフィールズの場合、希望するデータのみを選定しプリント出来るようにするなどの改良をし、質量共によりよいガラスデータベースが出来たと自負しております。

データベースの普及やINTERGLAD友の会の集いを通じて、我国を始め世界各国の会社・研究所・大学等の学者・技術者とのつながりが出来たのはたいへん喜ばしい事と思います。

INTERGLADを媒体として、ガラスの研究・開発やガラスの利用の面で、知識の向上、技術の向上、研究開発のスピードアップが図れると思われれます。

第2版開発の方向を審議された安井 至東大教授をはじめデータベース委員会委員の方々、製作を担当された大日本印刷株式会社に厚く御礼申し上げます。

願わくは、関係の皆様方が益々このINTERGLADをご愛用して頂き、データベース普及促進と、皆様方のガラス関連の研究・開発・利用の面で、大きな進展がありますよう祈念いたします。

(旭硝子株式会社専務取締役)